

## 豊北海岸における外来種ブタクサの記録

持田 誠<sup>1)</sup>

Makoto MOCHIDA, 2019. New Record of *Ambrosia artemisiifolia* L. (Asteraceae) naturalized  
in Toyokita Coast, Hokkaido.  
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 17-20.

### 摘 要

豊頃町から浦幌町に跨がる豊北海岸において、キク科ブタクサ属の外来種ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* L. を採集した。本種は北海道ブルーリスト（北海道外来種データベース）に掲載されている外来植物だが、豊北海岸での確認事例は無かったので記録しておく。

### 採集個体の特徴

2018年9月1日に、浦幌町立博物館で開催している月例調査観察会「豊北植物調査会」において、参加者の大本眞理子氏が豊北海岸の豊頃町側で見慣れない植物を確認した。豊北植物調査会は毎月1回、豊北海岸の同じルートで植物のフェノロジーを記録するもので、通常は目視観察だが、新産植物は採集し、浦幌町立博物館へ腊葉標本として収納することになっている。現地の観察ではキク科のブタクサ *A. artemisiifolia* L. と判断され、これまでに豊北海岸からの記録が無いことから、確認個体を採集して博物館へ持ち帰り、標本作製した（図1、#MOCHIDA 2018-0003）。

採集個体はシュート長が約50cmで、多数の頭花が1個ずつ穂状に密集している。標本をあらためて検討したところ、①花序の柄や茎、葉裏に白色の軟毛がある、②茎葉は全体に互生で、1～2回羽状に深裂している、という特徴が顕著に認められた。

ブタクサは、下部の茎葉は対生で、上部は互生になることが知られている（神奈川県植物誌調査会2018）。また、ブタクサの茎葉は一般に2～3回羽状に深裂する（滝田2001）。

また、ブタクサの雄性頭花の外面には硬い短毛が散生するか無毛であるとされているが（門田ほか2017）、本個体では無毛もしくは短軟毛が散生してい



図1 豊北海岸で採集されたブタクサの標本。2018年9月1日採集。#MOCHIDA 2018-0003 (URAH)

る。

ブタクサに近縁の植物としては、ブタクサモドキ *A. psilostachya* DC. と、別属のオオブタクサ *Ambrosia trifida* L. が知られている。オオブタクサは全ての茎葉が対生（門田ほか2017）とされることから、ブタクサかブタクサモドキの可能性があると判断し、本種の種名について検討した。

ブタクサモドキは、ブタクサと同じブタクサ属に分

1) 浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16



図2 ほぼ1回羽状深裂の葉しか持たない鶴川町汐見産のブタクサ標本。#K.Oita 01-6683 (SAPS)



図3 門別町富川で採集された現在道内産唯一と考えられるブタクサモドキの標本。K.Oita 00-6196 (SAPS)

類されるキク科草本だが、ブタクサが一年草なのに対して地下茎を有する多年草という生態的な違いがある。今回、採集された個体では、地下茎は認められなかった。

また、ブタクサが偽果に刺状の突起を有するのに対して、ブタクサモドキではこぶ状の突起を有するとされている(門田ほか 2017)。しかしながら、今回の採集個体では雌性頭花が未成熟で、偽果の基部の形状を確認することはできなかった。

以上のことから、雄性頭花の外面に若干の軟毛が認められるものの、①茎葉は1~2回羽状に深裂する、②地下茎が認められず一年草と思われる、の2点の特徴を重視し、本個体はブタクサと同定した。

なお、北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS)に収蔵されているブタクサの標本を検討したところ、茎葉の対生・互生については神奈川県植物誌調査会(2018)に記述されるとおりの個体が多いものの、羽状深裂については1回羽状深裂のみの茎葉を持つ個体も存在した(引用標本 #K.Oita 01-6683)。

### ブタクサとブタクサモドキの記録

ブタクサは豊北海岸では初めての記録だが、道内の分布実態がどうなっているのかを把握するため、文献記録および北海道大学総合博物館(SAPS)、帯広百年記念館(OCCM)、釧路市立博物館(KCCM)に収蔵されているブタクサ属の標本を検討した。

ブタクサは北アメリカ原産のキク科の一年生草本である。久内(1950)によると、日本では1880年に内山富次郎が千葉県南部で採集し、東京大学の小石川植物園で栽培した個体の標本がもっとも古いとされる。

北海道を含む全国各地で定着が確認されている(滝田 2001, 高橋 2003, 太刀掛・中村 2007, 松井 2015, 五十嵐 2016, 門田ほか 2017)。しかし、自然史標本データベース「サイエンス・ミュージアムネット」によると、北海道でも十勝および道東での採集標本は少ない。十勝産標本はわずか1点で、帯広市の十勝川河畔で採集された標本が釧路市立博物館(KCMH)に1点収蔵されている(引用標本 #KCMH 000899)。ほかに道東産としては、同じく釧路市立博



図4 帯広市の十勝川河畔で採集されたブタクサの標本。#KCMH 000899 (KCMH)



図5 釧路市の釧路西港で採集されたブタクサの標本。#KCMH 000898 (KCMH)

物館に釧路西港産標本が収蔵されているのみである(引用標本 KCMH 000898)。なお、帯広百年記念館にもブタクサの所蔵はあるが、いずれも上川地方で採集された個体で十勝産の収蔵は無い。

ブタクサモドキは、ブタクサと同じく北アメリカ原産の外来植物である。日本では1915年に久内清孝が初めて神奈川県横浜市で採集している(久内1942)。その後、1937年にも宮代周輔がやはり神奈川県横浜市から採集しており、この標本が横浜市こども植物園に収蔵されている(神奈川県植物誌調査会2018)。

北海道では、笈田一子が2000年に日高の門別町で採集しており、これが道内初記録とされる(五十嵐2001)。標本は北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS)に収蔵されている(引用標本 #K.Oita 01-6196)。なお、五十嵐(2016)は、笈田が確認した日高門別の自生地からは、既にブタクサモドキが消滅していることを報告している。

その後、文献で確認できるブタクサモドキの道内産地は無く、北海道ブルーリストでも日高門別のみを確認地点として掲載している。いっぽう、五十嵐(2016)、北海道ブルーリストともに、ブタクサは道内の多数の

地域で野生化が報告されている。

しかし、ブタクサの形態の変異については情報が少なく、また、道内ではブタクサモドキの標本がほとんど存在せず、存在もほとんど認識されていない。したがって、従来、ブタクサと同定された標本のなかには、ブタクサモドキが紛れ込んでいる可能性がある。今後、各地の収蔵庫におけるブタクサと同定された標本の再同定調査が必要と思われる。

採集標本は、浦幌町立博物館収蔵庫(URAH)に収蔵した。標本の調査にあたり、北海道大学総合博物館の高橋英樹教授、帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員、釧路市立博物館の加藤ゆき恵学芸員にご協力いただいた。深く感謝したい。

また、本標本は、浦幌町立博物館の月例調査観察会「豊北植物調査会」における定例調査観察会での記録である。筆者以外の当日の観察会参加者は以下のとおりであり、日頃からの調査協力に対して、記して謝意を表したい。大本真理子、武藤多賀子、山本ひとみ、江崎治子、池田守、池田順子(敬称略)。

引用標本

ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* L. (Asteraceae)

#MOCHIDA 2018-0003 : 北海道中川郡豊頃町トイトツキ(豊北海岸). 採集年月日:2018年9月1日. 採集者: 持田誠、大本眞理子、武藤多賀子、山本ひとみ、江崎治子、池田守、池田順子. Japan,Hokkaido; Nakagawa-gun, Toyokoro-cho, Toitokki, Toyokita Coast. May.1,2018. Coll.: Makoto Mochida, Mariko Ohmoto, Takako Muto, Hitomi Yamamoto, Haruko Ezaki, Mamoru Ikeda & Junko Ikeda (**URAH**)

#K.Oita 01-6683 : Japan, Hokkaido; Iburi-shicho, Mukawa-cho, Shiomi. Aug.26,2001. Coll.: K.Oita (**SAPS**) / #KCMH 000899 : Hokkaido, Tokacho, Obihiro-shi, Waste Place in riverbed. alt.69m. Aug.16,1982. Coll.: K.Takita (**KCMH**) / #KCMH 000898 : Hokkaido, West Port of Kushiro, Kushiro-chi Waste ground. alt.3m. Oct.3,1981. Coll.: K.Takita (**KCMH**)

ブタクサモドキ *Ambrosia psilostachya* DC.(Asteraceae)

#K.Oita 00-6196 : Japan, Hokkaido; Hidaka-shicho, Monbetsu-cho, Tomikawa. Oct.5,2000. Coll.: K.Oita (**SAPS**)

標本庫略号 : **URAH** : 浦幌町立博物館 / **SAPS** : 北海道大学総合博物館陸上植物標本庫 / **KCMH** : 釧路市立博物館植物標本庫

引用文献

久内清孝, 1942. 採集余録 (其の13). 植物研究雑誌 17 (9) : 548-549.

久内清孝, 1950. 帰化植物, 227. 科学図書出版社, 東京.

五十嵐博, 2001. 北海道帰化植物便覧 2000年版, 106-107. 北海道野生植物研究所, 札幌.

五十嵐博, 2016. 北海道外来植物便覧 2015年版, 137-138. 北海道大学出版会, 札幌.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司, 2017. キク科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 改訂

新版日本の野生植物 5, 198-369. 平凡社, 東京. 神奈川県植物誌調査会, 2018. 神奈川県植物誌 2018. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.

松井洋編, 2015. 北海道維管束植物目録, 自費出版. 太刀掛優・中村慎吾, 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会, 広島.

高橋秀男, 2003. メナモミ連. 清水建美編, 日本の帰化植物, 197-207. 平凡社, 東京.

滝田謙讓, 2001. 北海道植物図譜, 911. 自費出版.